

東京農大周辺(東京都世田谷区)



日本初の私立の農学校として知られる東京農業大学。閑静な住宅街にある世田谷キャンパスは緑の木々に包まれ、都心とは思えないほど自然豊かな空間だ。近接する「食と農」の博物館では醸造関係の展示や物産展などのイベントが開かれ、地域住民の憩いの場として親しまれている。

東京農大は農業の情報発信基地としての役割も担っており、学生も積極的に取り組んでいる。

コミュニティ放送局のエフエム世田谷では、学生たちが参加する農業番組が長年続いている。学生たちが「農業戦隊」を結成し、農村との交流や生ごみのリサイクルなどの体験リポートを行っている。2004年の開始以来、東京農大を

食と農、地域に情報発信

中心に、600人以上の学生が参加した。長野県長和町の山村再生プロジェクトをリポートした東京農大2年生の加藤淳史さんは「ラジオ出演に初めは緊張したが、長和町のよさを伝えられてよかった」と振り返る。

世田谷は野菜などの生産が盛んで、東京23区でも有数の農業地域だ。番組のパインナリティーを務める植村春香さんによると「番組は学生目線でわかりやすいと、生産者や商店街の人たちからの反響も大きい」という。

実学重視の校風を映し、学生の商業活動も活発だ。大学発ベンチャーで食品のネット通販を手掛ける「メルカード東京農大」では、約20人の学生が社員として働いている。

入学時の案内で興味を持ち、入社した1年生の岩田絢子さんは「アルバイトをするより勉強になる。新商品などを提案していきたい」と意気込む。全国各地にちらばった卒業生とのつながりが会社の強みの一つだ。特に日本酒関係には強く、蔵元の約8割は東京農大の卒業生といわれる。

同社社長で東京農大副学長の豊原秀和さんは「将来は全国から商品を集め、農大マーケットとして大学でイベントを行いたい」と、大学が商店街の機能を持ち、地域との結びつきを一層強めていく考えだ。

次回は「高松・香川大周辺」です。

学生街今むかし



エフエム世田谷の農業番組に出演した学生たち